

はしもと

〈病院理念〉

地域に根づいた患者様に信頼される病院づくり

〈基本方針〉

～心のかよう病院を目指して～

患者様のため、まごころの医療を目指します
地域の皆様から信頼される病院づくりに努めます
常に新しく良質な医療ができるように心がけます
皆様の健康増進、疾病予防のお役に立ちたいと願っております

〈病院運営のコンセプト〉

1. 気づきの医療
2. わかりやすさ



回復期リハビリテーション病棟（言語聴覚士）

嚥下とは、「飲み込み」のことです。嚥下は舌や口の周り、首などの筋力を使って食べ物や飲み物をのどの方へ送り込み、のどを通過した食べ物をさらに食道へ送り込む一連の動作を示します。

嚥下障害とは、食べ物が上手に飲み込めない状態のことです。

嚥下障害があると、飲み込みの機能が上手く働かず、唾液や食べ物、胃の逆流物などが気管に入ってしまうことがあります。それが原因となり、“誤嚥性肺炎”を引き起こします。

当院には12名の言語聴覚士が在籍しており、嚥下障害の患者様に対するリハビリに取り組んでいます。

今回は、リハビリや介護施設などでも取り入れられている「**パタカラ体操**」についてご紹介します。

方法：「パパパパ」……と
はっきり大きく口を
動かして発音する

目的：舌、唇やその周りの
筋肉の衰えを予防、
改善すること

飲み込みのことについて
困った事があれば、
お気軽にご相談ください。

「**パ**」：唇をしっかり閉じて発音する
→唇の筋力を鍛えて食べ物を口からこぼさないようにする

「**タ**」：舌を上あごにくっつくように発音する
→舌の筋力を鍛え、咀嚼して飲み込む力をつける

「**カ**」：のどの奥を意識して発音する
→食べたものを食道まで運ぶ力をつける

「**ラ**」：舌をまるめるように発音する
→噛み終わってからのどへ運ぶ舌の動きを鍛える



認知症治療病棟

◇◇◇ 精神保健福祉士の役割 ◇◇◇

認知症治療病棟には精神保健福祉士1名が配置されています。



精神保健福祉士は、「精神保健福祉法」にもとづく国家資格です。精神保健福祉士は、おもに精神科医療機関や精神障害者社会復帰施設、保健所、精神保健福祉センター、精神科デイケア施設などで相談支援業務にあたっています。

病院や施設に入院・入所中の方のその後の生活支援のための相談などを行っています。

当院では認知症治療病棟に入院中の患者様とご家族様を対象に、介護保険の申請、更新手続きのお手伝い、退院先となる施設等の情報提供やご相談を行っていますので、何かありましたらお気軽に声をおかけください。



◇◇◇ 公認心理師の役割 ◇◇◇

『公認心理師』とは、本年より誕生した心理検査やカウンセリングなどの心理的支援を行う心理職の国家資格です。

当院の認知症治療病棟には、医師や看護師をはじめとして作業療法士や介護福祉士、ケアワーカー等多くの職種が一つのチームとして働いています。

その中で、公認心理師は心理職として心理検査を行うことにより患者様の認知機能や精神症状などの評価を行っています。そして、検査から得られた結果は他職種がそれぞれの専門性を活かして患者様と関わりができるように分析し共有しています。

また、現在は週に一度、ご入院されてから半年程度の患者様を中心として“子供の頃にしていた遊び”や“学生時代に熱中していたこと”等、毎回異なるテーマを設けて過去のご自身の体験や懐かしい思い出についてお話をして頂くことにより、気持ちの安定や他者と関わることの促進など、生きる力を引き出すことを目的とした“集団精神療法”も行っています。

家族会（理学療法士）



回復期リハビリテーション病棟にて「**理学療法士による家族会**」を2019年7月13日に開催しました。

今回のテーマは「**これからの生活を考える**」です。

患者様をはじめご家族様は、これから病院を退院された後どのような生活を送ることになるのか、病気になっても障害を負っても人生を楽しむことができるのかなど不安に感じることがあると思います。そのような退院後の生活のイメージを少しでも前向きに、より具体的に考える機会となれるように、私たち理学療法士と一緒に話し合う時間を設けました。

当日は参加家族16組、30名の参加がありました。当院理学療法士より「生活の質」「人生の質」と言われる「QOL」を高めるために、個人のライフスタイルに合わせて様々な練習を行っていく重要性をお話させて頂きました。基本的な日常生活動作だけでなく、家事や仕事、余暇活動などにも視点を向けられるように理学療法士が患者様一組ずつお話を聞かせて頂きました。参加された患者様、ご家族様からは、「日頃はあまりイメージが付きにくいですが今回の話合いで考えるきっかけになりました」「ゆっくりと一緒に話すことができ、気が付くことも多かったです」などのご意見を頂きました。

これからも日頃の入院生活の中で、1つでも多く「生活の質」を考えることができるように、職員一同サポートさせて頂きますので、いつでもお声かけください。



ふれあい看護体験



ふれあい看護体験を開催しました



2019年6月15日（土）、橋本病院『ふれあい看護体験』を開催しました。

三豊中学校、和光中学校の2年生、3年生の生徒さん16名が参加し、看護師の仕事やバイタル測定の講習、車椅子体験、また病棟で患者様とふれあい楽しい時間を過ごしました。

参加した生徒さんからは、「実際にユニフォームを着て患者さんとふれあったりしてすごく楽しかった」「患者さんと色々なお話ができてよかった」「看護師になりたいという思いが一層強くなった」などの感想が聞かれました。



将来の目標の選択肢の1つとして、この『ふれあい看護体験』がお役に立てるよう、今後もこの時期に継続して開催を考えております。是非ご参加ください。お待ちしております。



栄養部

イベント食をご紹介します



母の日メニュー



オムライス
シーザーサラダ
じゃがいもの
ポターージュ
フルーツポンチ



ごちそうの日メニュー



赤飯
天ぷら
炊き合わせ
タコの酢味噌かけ
清汁



バイキングメニュー



今回のバイキングでは揚げたての天ぷらを提供しました。揚げたて献立はとても人気で、食欲もアップし美味しく食べることができたようです。今後も様々なイベント食を提供していきたいと思えます。



通所リハビリテーションセンターはしもと

個別リハビリ・自主練習の支援

当センターでは、全ての利用者様に対しリハビリ専門職による個別リハビリを実施しています。身体機能だけでなく日常生活動作や家事、趣味に渡り必要な事柄について相談し、個々にリハビリの計画を立てます。自主練習メニューも1人1人に合わせて調整し、センター内や自宅などで必要な動作について自主練習できるよう、また継続できるように支援しています。

また利用者様が活動しやすくなるようリハビリ機器も増やし環境を整えました。リハビリを行うことにより、その人らしい生活が取り戻せるように内容の充実を図り、利用者様が主体となって積極的に取り組んで頂き、剪定作業、畑作業、麺打ちなど具体的な目標を持って、卒業を目指します。



スマイルカフェ

地域の方々との交流の場として、定期的に開催しています。看護師による健康観察、リハビリスタッフによる体操、遊びリテーション、ティータイム、記念撮影等を行います。どなたでも参加できます。

次回：
9月14日(土)



<お問い合わせ>

施設の見学ができます。
随時、お気軽にどうぞ。
TEL : 0875-63-3700
担当 : 西山 寿美子

医療安全管理体制委員会



安全は名前から



● 患者間違いを防ぐために

違う名前を呼ばれても、聞き間違いや思い込みで自分だと思ってしまうことがあります。

当院では、患者間違いや薬品の間違いを未然に防ぐために、点滴や注射・処置・検査等を行う前には、お名前（フルネーム）の確認をさせて頂いています。

同姓同名の患者様、一文字違いのお名前の患者様、類似した名前の患者様も多いため、生年月日も確認させて頂いています。

また入院中は、お名前が記入されたリストバンドを装着して頂き、呼名に返答があっても必ずネームバンドでお名前の確認をさせて頂いています。

● 患者様ご自身やご家族の皆様も確認をお願い致します

各種伝票や処方箋を渡された時、また注射や検査が実施される時など、**ご自身の氏名であるか？**
実施されるのは何か？等の確認をして頂けますようお願い致します。



患者間違いは、患者様と医療従事者が協力して防ぐことができます。
お顔を知っていても何度もお名前をお聞きしますが、安全のためにご協力ください。

防火防災委員会

2019年度 防火訓練

当院では、年2回の防火訓練と南海トラフ地震を想定した患者様の受入方法についての防災訓練を実施しています。

本年度は5月22日夜間に火災が発生したとの想定で防火訓練を行いました。今回の訓練では、患者様の避難時に煙をいかに吸い込まないで避難させることができるのかについて新しい対策を試験的に取り入れました。毎回の訓練後に、参加した職員から寄せられる意見を参考にし、今後も充実した訓練を行う事を目指しております。

近年、国内でも大雨による被害や大規模地震が頻発し、重大な被害を被っています。こうした予期せぬ非常災害時において、近隣の住民の方に重大な被害が及んだ場合に、いかに迅速



に対応出来るのか等、スタッフの1人1人が防火・防災への意識を高めるとともに備えを充実させ、今後も取り組んでいきたいと思っています。



褥瘡委員会

褥瘡とは一般的に「床ずれ」と呼ばれており、長期間同じ姿勢で寝たきり等になった場合、身体と支持面との接触により血行が悪くなり周辺組織が壊死を起こします。麻痺等で感覚が鈍い方や自分で身体の向きを変える事ができない方、痩せて骨が出っ張っている方、栄養に偏りがある方等は褥瘡が発生しやすいと言われています。

当院での院内褥瘡発生率は、[平成28年度 1.6%] [平成29年度 0.9%] [平成30年度 0.6%] と年々減少傾向にあります。褥瘡を発生させない為に次の取り組みを行っています。

① 寝床の環境を整える。

⇒ エアマットを使用しています。当院では、院内のマットレスを体圧分散マットレスに変更しています。

② 体位変換を行う。

⇒ 2時間ごとの体位変換と良肢位保持をしっかりと行っています。

③ 褥瘡部位の清潔を保つ。

⇒ 皮膚を清潔にする事と適度な皮膚の潤いを保つことに気を付けています。

④ 十分な栄養の獲得を図る。

⇒ 不十分な方には本人様の嗜好に沿い補助食品の提供を行っています。

当院での取り組み

リハビリ

… 褥瘡にならないよう日常生活動作練習を多く取り入れ、寝たきりの防止を行っています。

病棟・看介護

… 2～3時間毎の体位交換、良肢位保持の設定・実施、栄養状態の管理に関わっています。

褥瘡委員会

… 月1回、医師・看護師・介護士・リハビリスタッフを含めてカンファレンスを行い、回診やより良い治療方針の検討を行っています。



外国人技能実習制度の導入

当院では、外国人技能実習制度を導入することになりました！

外国人技能実習制度とは、日本の企業に発展途上国の若者を技能実習生として受け入れ、実際の実務を通じて実践的な技術や技能・知識を学び、帰国後母校の経済発展に役立ててもらうことを目的とした公的制度です。

技能実習生を受け入れるために、2019年5月11日～15日にかけて、インドネシアのジャカルタOSセルナジャヤへ面接に行ってきました。

今回の面接にて、インドネシアから看護師の資格をもつ22歳の女性2名を受け入れることになりました。当院では介護職として業務を行います。

インドネシアの人々はとても温かく真面目で、何事にも一生懸命であり、今回受け入れをする2名の女性も、笑顔が素敵で介護の仕事に一生懸命に学び将来に役立てたいとの思いがあり、また日本が大好きという2名です。



当院も受け入れる側として、母国を離れ一生懸命に頑張りたいという2名を温かく迎え入れ、より良い介護技術や技能・知識が学べるよう指導していきたいと思っております。



地域連携室

2013年12月1日から行っている**事前訪問**（当院転院前に患者様が入院されている病院へ直接訪問し、心身状態の把握や入院についての説明等を実施）の2019年3月～4月の回復期リハ病棟の実績を紹介します。

- 1ヶ月の訪問件数：5月【38件】、6月【24件】
- 入院されている病院から紹介状が届いて訪問するまでの平均日数：5月【6.0日】、6月【6.2日】
- 紹介状が届いて当院へ転院されるまでの平均日数：5月【17.3日】、6月【14.9日】

※事前訪問後、当院へ転院されるまでの平均日数は10.4日（1～44日）です。**大変お待ちしておりますし申し訳ございません。**

対象となる方

1. 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷の発症又は手術後、義肢装着訓練を要する状態から2ヶ月以内。高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸随損傷及び頭部外傷を含む多部位外傷の発症から2ヶ月以内。
2. 多肢の骨折、大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の骨折もしくは手術後から2ヶ月以内。
3. 外科的手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後から2ヶ月以内。
4. 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は関節の神経、筋又は靭帯損傷後の1ヶ月以内。
5. 股関節又は膝関節の置換術後の状態の1ヶ月以内。



リハビリは 365日、1日3時間

提供させていただきます。
また、多職種によるチーム医療で、早期に退院できるように取り組んでいます。

入院相談はお気軽にご連絡ください！

橋本病院 地域連携部

窓口：大西 宏美

電話：0875-63-3552（直通）
0875-63-3311（代表）



認知症治療病棟への入院相談もお伺いしております。お気軽にご連絡ください。



移動も安心のサービス

転院の際の無料送迎をしております。ご希望の方はお気軽にお申し出ください。

日本リハビリテーション医学会

第56回日本リハビリテーション医学会学術集会 会期：2019年6月12日(水)～16日(日)

会場：神戸コンベンションセンター



「GS-Kneeを用いたを用いた歩行練習で歩容の改善を認めた一症例」

Improvement of ambulation for chronic CVA patient in using GS-Knee.

大西 徹也（理学療法士）

「Contraversive Pushingにおける起立環境に対する変化と動向」

Clinical motion analysis of standing for contraversive pushing after stroke

福田 真也（理学療法士）



今年はISPRM（リハ医学会の世界会議）も同時開催されており、国際色豊かな学会でした。再生医療、自動車運転支援、VR、ロボットリハビリテーション、他にも数多くの分野の最先端を学ぶことができました。

日本糖尿病学会

第62回日本糖尿病学会年次学術集会

会期：2019年5月23日(木)～25日(土)

会場：仙台国際センター、仙台市民会館

「頭部CTを用いた脳虚血病変画像解析と動脈硬化関連因子との関係性について」

福田 真也（理学療法士）



糖尿病患者は年々増加傾向にあるものの、治療の中断者が多い現状があります。中断してしまうと様々な合併症にかかるため、中断させない様に色々な工夫がなされています。スマートフォンのアプリ等を使った工夫など、とても勉強になりました。

こころの健康展

ストレス社会の今、あなたは心の健康に自信がありますか？

「こころの健康展」は一人ひとりが心の健康について関心を持ち、心の病のある人々への理解と温かい支援を頂けるように香川県、香川県精神保健福祉協会が主催し毎年開催しています。

今年は、6月14日（金）と15日（土）の2日間、イオンモール高松で開催されました。こころの健康展も今年で40回目の開催となり、参加団体も42団体（病院 14、クリニック 2、障害福祉サービス事業所 20、保健所等 6、協力団体 2）となりました。

精神障害者作成の手工芸、陶芸などの作品展示コーナーや心の健康に関するものや障害福祉サービス事業所紹介のパネル展示、手工芸品やお菓子などの即売コーナー、クイズラリーなど、皆様に楽しんで頂ながら心の病を正しく理解してもらえよう活動しています。



体力測定

日時：2019年5月15日（水）9:30～12:00
 場所：山本町農村環境改善センター（三豊市）
 参加人数：17名（男性9名、女性8名）
 平均年齢：76.0歳



【測定内容】身長・体重、握力、大腿四頭筋筋力、TUG（歩行評価）、片脚立ちテスト、10m歩行スピード、2ステップテスト、立ち上がりテスト、ピンチカテスト（手指筋力テスト）



香川県理学療法士会健康増進部からの依頼で体力測定（健康教室）を実施しました。例年の測定項目に加え、今年は香川大学大学院生の依頼でピンチカテストも実施しました。測定の結果、ロコモ度1（移動能力低下が始まっている）が9名、ロコモ度2（移動機能低下が進行している）が2名おられました。下肢の筋力強化を中心とした運動習慣をつけることが重要と思われます。参加された方々ありがとうございました。

職員募集のお知らせ

募集

看護師・准看護師
 介護福祉士・介護職
 ※ 常勤で働ける方



まずは、病院見学にお越し下さい！
 給与等詳細は、当院ホームページでも閲覧できます。
<http://www.wafukai-hashimoto.jp>
 TEL 0875-63-3311（人事担当：安藤）



医療法人社団和風会 橋本病院
 〒768-0103
 香川県三豊市山本町財田西902番地1
 TEL：0875-63-3311
 FAX：0875-63-2651
 入院相談直通電話：0875-63-3552
 E-mail：wafukai@gaea.ocn.ne.jp
 HP：http://www.wafukai-hashimoto.jp
 発行元：橋本病院 広報委員会

回復期リハビリテーション病棟 89床
 認知症治療病棟 67床

橋本病院指定居宅介護支援事業所
 通所リハビリテーションセンターはしもと
 訪問リハビリテーションセンターはしもと

